くなって、カゴをさげることもツエをつくこともできず、まともに歩くことさえできないようになりました。まして、年のいかない娘はこういうひどい生活にたえられないで、とうとう病気にかかってひどい熱を出してしまいました。この世の中に、わが子をいとしいと思わぬ父母がいるでしょうか。とはいいましても、ひや水いっぱいろくにいただけない私たちに、娘を医者にかけて薬をのませるだけのお金があろうはずがございません。娘が発病して五日目の晩、親子三人はある地主の家畜小屋に身をよせあって休んでおりました。娘はひどい熱でひきつりをおこし、大声でなきさけびます。それをききつけた鬼のような地主のばあさんがやってきて、「さっさと出てうせろ、こんなところでくたばられちゃ、えんぎでもない！」とどなりつけ、私たちを追い出してしまいました。追いだされてまもなく、娘は息をひきとりました。

昨年（一九六一年）はまたしても数ヵ月のあいだ雨が降らず、一九四一年の時にくらべたらずっとひどいひでりでした。ですが、共産党の指導と、人民公社というたのみの綱がございますので、うんとがんばってよい収穫をあげることができまして、生活に困ることはございません。昨年の秋に分配された食糧で、家中のいれものといういれものはお米でいっぱいで、私たち一家四人が夏の取り入れまでたっぷり食べてゆけるほかに、まだ余分がでます。そのほかに、綿や食用油、たき木まで生産隊から分配をうけました。たき木といえば、いぜん、この村はたき木のたりないところでしたが、いまでは、秋のすえに分配してもらった分はもちろん、夏と秋のはじめに分配してもらったのがまだつかいきれずに、庭に積んであります。きょねん、私は娘と二人で働きにで、牛飼いも手伝いまして、

野菜畑の李風芝さん母子

二人で六七九〇工分（工分は労働量にたいする計算単位、一〇工分が一労働日に相当する）をもらいました。で、食料のほかに、現金と増産奨励金の分配もうけました。集団経営からはいる収入のほかに、私たちのところは自留地（自家用の蔬菜や飼料などを植えるための小面積の土地）もあるし、内職もやっています。自留地につくったなっぱやダイコンはよくできました。食べきれないので、大きなかめふたつにつけて、春までとっておくことにしました。

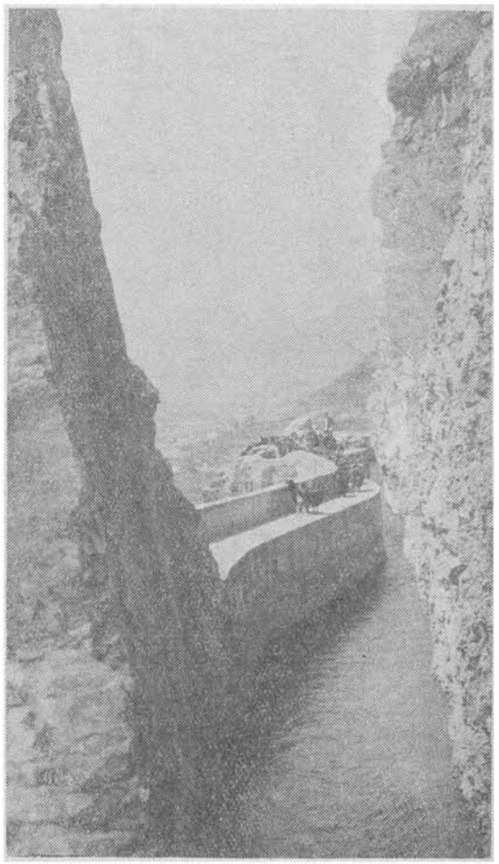
娘といっしょに、あれ地をすこしばかりひらいて、高粱と緑豆をうえました。私どもが飼っている豚も六〇キロになりますので、旧正にはつぶし、半分は賣り、残りの半分は家で食べたりよそさまへ上げるつもりでおります。一〇羽あまりのニワトリも、毎日タマゴを四つか五つうみます。ほかに、羊を一頭、ウサギを六匹飼っています。

俗に「オカラもむやみに食べると身上をつぶす、ぬか雨も着物をぬらす」と申します。じょうずに生活のやりくりをすることが大切でございます。手もとに金があっても、しまつして、細く長く暮らす算段が必要でございます。私のところではふつうの日用品はこの数年間にだいたい買いそろえ、綿布も三四、キャラコや絹地も買い置きがあります。ですから、いまのところ、別にこれ以上たくさんのものを買うつもりはございません。算数にあかるい方がよくいわれます。「銭は死んだ銭にもなれば、生きた銭にもなる、食ったり飲んだりして使ってしまえば銭も死んでしまう、もしこれを生産に役立てたら生産もうまくゆくし収入もふえる、これで銭も生きるというものだ」と。ですから、私たちはもっと農具を買うつもりでございます。

水がのめるのも井戸を掘ってくれた人があればこそです。昨年のようなひどいひでりにみまわれながら、こんなにしあわせなくらしができますのも、共産党と毛主席のおかげでございます。共産党と毛主席は、私どもの大恩人でございます！

中国の農地水利建設の大発展

何文思



太行山上の水路

中国の水利資源はきわめてゆたかである。全国には大中の河川が六〇〇〇あまりもあり、毎年の平均流水量は約二万六八〇〇億立方メートルにたっする。また、すくなからぬ地区には、相当ゆたかな地下水が埋蔵されている。したがって、灌漑を発展させる自然条件は比較的にめぐまれているといえる。だが、いま一面からいうと、中国の地勢と気候はひじょうに複雑で、降雨量が地方的に時間的に不均衡であるため、水害・冠水、干害がいつも交互に発生する。そのため、水利工事をおこして干害と冠水を克服することが、中国農業生産上の重要な措置のひとつとなっている。

数千年らい、中国の勤労人民は、故郷をまもり、生産を発展させるためにひたすら治水を重視したばかりでなく、驚くべき知恵を発揮してきた。伝えられるところによると、四千年あまりまえに、禹王は勤労人民をひきいて多くの河川をさらえて流れをよくし、当時猛威をふるっていた洪水を制御して海に流しこんだので、洪水におびやかされていた人民は安心して生業を楽しめるようになったという。紀元前五〇〇余年、呉王闔廬は軍事輸送と灌漑を目的として運河と水門をつくって、太湖と揚子江をつないだ。そのご、秦、漢、隋、元、明の各時代にそれぞれ拡張されて、北京—杭州をつなぐ世界に名高い大運河となった。戦国時代の秦国蜀郡の太守李冰は、住民をひきいて四川省灌県付近の岷江左岸に都江堰をきずいたが、計画の合理的なこと、設計の科学的なこと、効果の高いことで世に名高い。中国の勤労人民は昔から渠、堰、池、堤などをつくることにもひじょうに注意をはらった。なかでも秦渠、漢渠、唐徠渠、鄭国渠、芍陂などは、みな広大な良田を灌漑することができた。このほか、地下水の利用、水土保持などにもめざましい成功をおさめてきた。

中国はこのようにゆたかな水利資源と貴重な治水経験をもっているのだから、本来これを人民の幸福のために十分利用してしかるべきだった。しかし、解放前の中国人民は長期にわたる封建支配のもとに、とりわけこの百年らいの帝国主義・官僚ブルジョアジー・地主階級による三重の抑圧下に、年々戦争になやまされ、生業に安んずることができなかった。中国の水利事業は発展しなかったばかりか、もとからあった多くの水利施設さえ長年のあいだ修理されなかったり、破壊されて、洪水の予防と灌漑の効果を発揮することができなかったために、人民はつねに災害になやまされていた。歴史の記録によると、黄河流域では、三千年間に干害が一〇七三回、水害が一五〇〇余回発生している。一九三三年の黄河の大洪水は堤防を五〇余ヵ所決壊させ、一万一〇〇〇平方キロの土地を水びたしにし、被害者は三六四万人あまりにたっした。一九三八年、抗日戦争に消極的だった国民党反動派は、かれらの逃亡を掩護するために、河南省花園口で黄河大堤防を決壊させるという極悪非道の犯罪行為を犯し、幾千万の人びとを路頭に迷わせ、一家離散のうき目にあわせた。国民党が支配していた時期に、さまざまな治水委員会がつくられたが、治水を名目に毎年人民から勝手に税金をまきあげ、おびただしい大金をしぼりとった。ただし